

平成 30 年 3 月 23 日

紀の川大堰と河口部の自然再生の見学会

平成 29 年 9 月 27 日、湿地・沿岸域研究委員会主催の見学会に参加しました。水環境学会シンポジウムが和歌山大学で開催されたこともあり、学会 2 日目の午前に、和歌山市にある紀の川大堰と河口部の自然再生現場を見学しました。紀の川は日本で最も雨の多い大台ヶ原を上流に持ち、支川を集めながら中央構造線に沿って流れ、紀伊水道に注ぐ、流域面積 1,750 km²、幹線流路延長 136 km の一級河川です。河口域には、環境省の重要湿地に指定されている干潟が存在し、中下流には、瀬・淵が連続的に形成されています。今回は、近畿地方整備局和歌山河川国道事務所さまに御案内いただき、紀の川大堰と河口部の自然再生現場を見学しました。

はじめに水ときらめき紀の川館で簡単な説明を受け、その後、直川ワンド、右岸干潟、北島橋浅瀬を見学しました。直川ワンドでは見事なワンドが形成され、多様な抽水植物が繁茂していました。魚道観察室では、いろいろな種類の魚道を上からと、さらに側面からも観察することができ、実際に魚が遡上している様子を観察することができました。

和歌山河川国道事務所のみなさまにご案内いただき、充実した見学会となりました。



直川ワンドの様子



設計図をもとに直川ワンドの説明を受ける様子



いろいろな形の魚道があり、実際魚が遡上している様子も観察できた



魚道を側面から見学できる施設

京都大学地球環境学堂 田中周平